

未来へのかけ橋

発行 2014年3月30日

岡田 理絵

〒772-0032

鳴門市大津町吉永226-2

TEL 088-685-3537

FAX 088-683-0395



岡田りえの 県政報告 No.7

明るい未来を
なるとから

徳島県議会議員 岡田 理絵

元気な阿波女，一人ひとりが輝く社会の実現にむけて頑張ります！

皆さまにおかれましては，ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日ごろは，ご支援を賜り厚く感謝申し上げます。

2013年は，2020年東京オリンピック・パラリンピック開催決定，徳島ヴォルティスJ1昇格など，日本にとって徳島にとってすばらしい成果をあげることができた年でした。そんな中，安倍首相は，自身の経済政策「アベノミクス」の成長戦略として，女性の活躍を推進する方針を打ち出し，そのスピーチで「女性の中に眠る高い能力を，十二分に開花させていただくことが，閉塞感漂う日本を，再び成長軌道に乗せる原動力である，と確信しています。」と述べています。また，国連総会一般討論演説においても「女性が輝く社会を作る」というテーマで，大変力強いメッセージを国際社会に発信しました。私は，最大の成長戦略は，女性をはじめみんながそれぞれの能力を活かして活躍できる社会になることだと考えています。地域のさまざまな分野で女性が輝くことは，全ての人々が輝くことを意味するに他なりません。

「一人ひとりが輝く社会」が実現するよう，元気な阿波女，これからも，さらに徳島発展のためまい進してまいります。皆さまとともに，力を合わせ一人ひとりが輝くより良い社会をめざし，明るい未来を徳島から，鳴門から発信してまいります。

今後とも引き続き皆さまの変わらぬご支援・ご指導を心よりお願い申し上げます。

6月定例議会質問 (抜粋) H25年6月14日

今回の質問のテーマは、「備える」です。

「備える」ということは、いつでも、そのタイミングを逃さず、すぐにできるように準備することです。「今でしょ」という言葉が流行していますが、平成26年4月からの高速道路共通料金にともない「徳島」のPRをどのように行っていくのかなど、まさに「今」スピード感を持って取り組むべき課題について質問しました。

問1 【マスコットスコットキャラクター「すだちくん」を活用した徳島県のPRについて】

Q

本四高速全国共通料金制度導入を千載一遇のチャンスと捉え、本県の産業振興、観光交流、農林水産物の販路拡大(岡田) 大につなげるため、平成5年開催の東四国国体にデビューした「すだちくん」を活用し、本県のイメージアップに戦略的に取り組むべきと考える。「すだちくん」とともに、鳴門の「うずしお君、うず姫ちゃん」や県内各キャラクターとのコラボもお願いしたい。すだちくんをリーダーとする、最強徳島ゆるキャラクター軍団で元気な徳島県をPRしていただきたい。

A

4月から、デザインの商業利用の無料化や着ぐるみの個人、営利目的の使用解禁を行い、県民や企業の自由な発想によりますます活躍の場の拡大を図っている。また、新たに子どもたちと一緒にダンスも踊れ、動きやすい「すだちくん」をつくるとともに、テーマソング、ダンス、プロモーションビデオの作成などを進めている。今後、オフィシャルサイトの開設、ソーシャルネットワークの活用、県内外で開催されるイベントへの参画などにより、積極果敢に取り組んでいく。



【すだちくんと】

【ゆるキャラ大集合】

〈徳島県政への取り組状況〉

全国プロモーションの一環として参加した「ゆるキャラグランプリ2013」では、参加1,580体中12位を獲得し、メジャーデビューを果たした。また、新たに製作した「テーマソング」と「ダンス」を活用し、県内外で本県のPRを実施した。

問2 【本四高速全国共通料金制度にともなう水産物の消費拡大について】

Q

本県の漁業関係者の皆さんは、消費者の「魚ばなれ」が少しでも改善されるよう、それぞれの創意と工夫による新たな取組みを始めている。例えば、(岡田) 地元の「北灘漁協」では、一昨年の4月に、「JF北灘さかな市」を開設し、「名物・産直市」として、地位を築きつつある。資源が溢れる本県の「海」や「漁村」の魅力を最大限に生かす「観光底びき網」や「養殖ハマチの餌やり体験」は、漁業そのものが観光資源となる。関西はもとより全国の消費者に対する本県水産物の「認知度向上」と「消費拡大」をより一層強化し、もうかる水産業の実現につながる販売促進の戦略が必要であると考えます。

A

京阪神地域の飲食店や社員食堂に県産農畜水産物の魅力をアピールし、お(熊谷政策監) 試し価格で提供することで、本県と京阪神とのつながりをより一層強め、新たな需要の創出、販路の開拓を図っている。さらに、とくしま産直市発信事業では、若年層の方には観光情報を含め、産直市の地図情報を案内するいわゆるナビアプリや、中高年齢層の方にはタウン情報誌などで情報発信力を強化し、徳島ファンを拡大していく。

〈徳島県政への取り組状況〉

首都圏において、見本市の開催や大規模商談会の参加などにより、販路拡大に取り組むとともに、関西在住者を対象に、鳴門鯛などを使った「地元料理」と、なると金時の「堀取り体験」などを組み合わせたモデルツアーを4回開催し、本県水産物のPRを実施した。

問3 【農業の振興について】

Q 「もうかる農業」の実現に欠かせない新たな品目や品種の導入について4月に石井町に開所した「農林水産総合技術支援センター」が農林水産業のさらなる発展を支える「知識の拠点」となることを期待している。農産物市場のグローバル化が進み、より消費者のニーズに合った商品をつくっていくという「マーケットイン」の考え方が大切である。先般、「鳴門藍住農業支援センター」が、地域の若手農業者と共に取り組んでいる「白ネギ」の新品種を試食させていただいた。新しいタイプの白ネギは、おいしく「従来のねぎより短めで、太く、折れる心配が少ない」との声もあり、消費者が買って帰りやすいメリットもある。砂地畑で栽培し、より特性が引き出せるのであれば、新たな徳島ブランド品目になるのではないかと感じている。「もうかる農業」を実現するために欠くことのできない、新たな品目や品種の導入をどのように支援していくか。

A 10年間で面積が倍増いたしましたブロッコリーや梨産地における長十郎から甘くみずみずしい幸水や豊水への
(吉田農林水産部長) 転換など、新たな品目や品種を導入し、ブランド産地の礎を築いてきた。このため、「農林水産総合技術支援センター」での研究、普及を核として、生産者やJAなどによるプロジェクトチームを組織し、産地での試験栽培、市場の評価等を行い、生産者の皆様と一体となった取り組みを進めている。現在、しっとり感やまろやかな甘みを持つサツマイモ、台風被害を受けにくく早期収穫が可能なレンコンなど、新品種の開発に力を注いでいる。

〈徳島県政への取り組み状況〉

鳴門・松茂地域において、砂地畑に適した「新たな品目」として、軽量で取扱いが容易で、西日本に競合する大産地がない「短葉性ネギ（ふゆわらべ）」の試験栽培を実施し、2月には東京築地市場での試験販売を行った。

問4 【消防・防災人材の育成について】

Q 地元鳴門市には、消防団は、47分団あり、941名の団員が昼夜を問わず消防防災活動を行っている。この中に
(岡田) は、女性分団もあり、14名の女性団員が活動し、鳴門市民として大変心強く感じている。その一方で、消防・防災人材の育成は急務であり、幼少期からの防災教育が重要であると考えている。鳴門市内には2つの少年少女消防クラブがある。各クラブにおいて地域の消防団員や指導員が訓練や研修を通じ、子供達に地域防災の知識を伝えている。本県で開催される西日本の「少年消防クラブ交流会」を、今後の消防・防災人材の育成にどのようにつなげていくのか。

A 平成22年度から、消防団や消防本部、自主防災組織や学校とも連携し、各地の小学校、中学校や消防学校において、少年少女消防教室を開催し、地域防災の未来の担い手の育成に積極的に取り組んでいる。また、こうした未来の担い手づくりは全国共通の課題であることから、全国大会の開催を国に政策提言し、今年度は西日本の交流会が徳島県にて初めて開催されることとなった。県内外の少年消防クラブ員が自らの地域は自らで守るという誇りを持ち、将来、消防団員を初めとするさまざまな地域防災の担い手に成長していけるよう取り組んでいく。

〈徳島県政への取り組み状況〉

「平成25年度少年消防クラブ交流会」西日本大会が8月7日から9日までの3日間、本県で開催され、西日本の8府県から18クラブ、指導者を含め136名が参加した。少年消防クラブ員が訓練等を通じて他地域の少年消防クラブ員と親交を深め、被災経験、災害への備えなどを学んだ。今後は、第1回全国大会が、本県において開催できるよう、引き続き国に強く要望を行っていく。



【平成25年度少年消防クラブ交流大会 西日本徳島大会】

問5 【グローバル化に向けた取り組みについて】

①ドイツとの交流事業について

Q

(岡田)

「今日さまざまな分野でグローバル化が急速に進展する社会の中にあっては、豊かな語学力、コミュニケーション能力、チャレンジ精神等を備えたグローバル人材を育成することは不可欠である。県はドイツ連邦共和国ニーダーザクセン州との友好交流をはじめ、環境先進国であるドイツにおいて、環境・自然エネルギー「文化」、「教育」、「スポーツ」分野での個別提携、大学間の交流事業の拡大など、両県州の交流は、新たなステージに進みつつある。これまでの交流の成果を踏まえ、今後、両県州で具体的にどのような交流に取り組んでいくのか。」

A

今年度はニーダーザクセン州政府からの招聘に応え、環境・新エネルギーと企業誘致・イノベーションの二つの(齋藤副知事)分野において、中堅クラスの県職員を州政府に派遣した。専門分野での交流の推進はもとより、世界を舞台に活躍できる人材の育成につなげていく。さらに、より若い世代の交流の場として、8月、ハノーバー市で開催される「アイデア博2013」に徳島科学技術高校及び阿南高専の生徒による環境分野でのものづくり技術を出展した。また、柔道、マラソンに加え、年内にはニーダーザクセン州剣道連盟の方々をお迎えし、剣道による交流をスタートさせるなど、幅広い交流を進めていく。

②グローバル人材の育成について

Q

(岡田)

5月28日に教育再生実行会議から、初等教育から高等教育まで一貫したグローバル人材の育成についての提言がなされた。私は、何よりも大事な視点として、子どもたちの将来の出口の部分を見据えた教育を展開していく必要があると考える。これからの子どもたちには、英語という語学力は必須であり、近い将来は、「会話」ができるレベルではなく「折衝・交渉」ができるレベルまで求められている時代になっているのではないか。そのため、小・中・高を通じて生きた英語に触れる機会や、異文化体験の機会をできるだけ多くするため、どのような施策を講じていくのか。

A

新たに小学校5、6年生を対象としたALTとともに徳島を学ぶデイキャンプ事業、県立中学校を対象とした(佐野教育長)「海外語学研修支援事業」、中高生を対象としたドイツ・ニーダーザクセン州との生徒間交流事業「グローバルチャレンジ支援事業」を実施している。また、高等学校では、「スーパーオンリーワンハイスクール事業」において、グローバル展開枠を設定し、世界をめざす学校の育成を図っている。5月に、飯泉知事から下村文部科学大臣に対し、休廃校などの既存施設を活用し、疑似留学体験ができる英語ゾーンの設置について政策提言を行った。早期からの生きた英語教育、異文化体験の実践を通じ、未来へ飛躍するグローバル人材の育成を積極的に推進していきたい。

皆さまのご意見をお聞かせ下さい。

住 所：鳴門市大津町吉永226-2

電 話：088-685-3537

FAX：088-683-0395

ホームページアドレス

<http://www.okadarie.com>

e-mail okada@okadarie.com



【デンマークからの短期留学生と
鳴門の阿波踊りにて(8月)】

「母体、胎児、新生児を総合的にケアして、母と子の健康を守るための周産期医療体制の整備」などの取り組みがされ、合計特殊出生率の増加につながっていると考える。また、国・県においては不妊治療費の一部助成が行われているが、国においては、不妊治療の助成制度のあり方の議論が始まったところであり、これからも注視していく必要がある。医学的な少子化対策として、「周産期医療体制のさらなる充実」や「医療面の環境整備」をこれまで以上に進めるべきではないか。

厚生労働省研究班の大規模調査により、2012年時点で全国の認知症高齢者数は約462万人となる、という推計が示された。「認知症」には、いろいろなタイプがあり、いずれも「早期発見・早期対応」が必要であることなど、認知症に対する理解を深めてもらう、広報をすることが必要であると考ええる。アルツハイマー病は、患者のことを報告したドイツの精神科医の名前を由来とする疾患名で報告がされた9月21日が「世界アルツハイマーデー」と制定され、この日を活用して、例えば啓発推進月間を設定するなど、認知症に対する集中的なPRを行うことが効果的ではないか。認知症への理解を深めるよう、集中的に、認知症高齢者や、その家族を地域で支え、支援を行うべきであると考ええる。

昨年(2016)の5月、認知症相談のワンストップ窓口として、認知症コールセンターを開設し、さまざまな悩み事を気軽に相談でき、さらに的確に専門医療機関と連携ができるよう体制の整備を行った。多職種で構成された認知症相談・地域チームによる相談会の開催や民生委員やボランティアなどに認知症への具体的ななかかわりにつけていただく地域リーダー養成研修により、地域で支える環境づくりを進めた。啓発推進月間の設定については、正統な普及啓発を初めとし、幅広い事業を実施することで、大きな相乗効果が期待することから、前向きに検討していく。

A

(知事) 不妊で悩まれている家庭の経済的負担軽減のため、国の助成制度を活用し、不妊治療費用に対する助成を行っている。今年度から、国の助成が一部減額される中、こうのとりの援事業の助成制度を本県独自に創設した。県内の周産期医療体制については、徳島大学病院の総合周産期母子医療センターにおいて、NICU（新生児集中治療管理室）、MFICU（母体胎児集中治療管理室）などの計画的な整備を行っている。県立中央病院では、7月に、これまでの治療実績を踏まえ、地域周産期母子医療センターとして認定した。これにより、総合メディカルゾーンを構成する県立中央病院と徳島大学病院が地域の医療機関と緊密な連携を図りながら、本県の中核施設として機能を発揮していき



【認知症対策のチラシ】

9月21日の「世界アルツハイマーデー」を初日とした1ヶ月間を「徳島県認知症対策普及・啓発推進月間」と設定し、普及啓発のための講演会の開催、パネル展や街頭啓発の実施、地域に出向いての相談会の開催。

さらに、グループホームを活用した実践的な地域リーダーの養成研修の実施など、市町村をはじめ、関係機関とも協力し、集中的な普及啓発に取り組んだ。なお、月間終了後も、認知症対策のサイトを県ホームページ上に掲載するなど、認知症高齢者やそのご家族を「地域で支える環境づくり」のため、引き続き各種事業に取り組んでいる。

平成25年度 委員会報告

総務委員会



【出羽島アート開催について】



【出羽島ガイドさんと島巡り】

徳島県離島振興計画対象の地域である牟岐町出羽島を視察。「出羽島アート展2013」では1万人をこえる観光客が訪れた。この離島振興の取り組みについて、牟岐町商工会の方より説明を受け、牟岐町観光ガイドの会のボランティアの方の案内で視察を行った。(4月)

環境首都とくしま創造センターとマリンピア沖洲太陽光発電所視察。
H25年4月に営業運転を開始した「マリンピア沖洲太陽光発電所」は県営では西日本初となる。全国トップレベルの日照時間を最大限活用し、一般家庭660世帯の電力をまかなえる施設について調査した。(5月)



【マリンピア太陽光発電所】

広域交流対策特別委員会

2014年3月1日開幕したJ1リーグ。

徳島ヴォルティス対サガン鳥栖の試合を佐賀県ベストアメニティスタジアムに視察。アウエーチームのファンの受け入れ体制、案内看板、渋滞対策、スタジアム内の誘導状況を調査。JR鳥栖駅のウエルカムポスター、駅員さんのホームチームユニホーム着用による雰囲気づくり等、みんなで応援する体制ができていた。徳島ヴォルティスも県民あげて応援し、盛り上げていきたい。



【JR鳥栖駅のアウエーファン受け入れの手作りポスターとフラッグ】



【JR鳥栖駅の駅員さん】



【サガン鳥栖スタジアム】

駅員さん全員がホームチームのユニフォームを着用し、開催地の雰囲気を盛り上げていた。

政策条例検討会議

徳島県議会は議会改革に取り組んでいる。

政策条例検討会議にて議員提案の徳島県振り込め詐欺等の被害防止に関する条例「詐欺でないで条例(応募により決定)」制定。

家族や友人など、身近な方が詐欺に巻き込まれようとしたときには、「詐欺でないで?」と互いに声をかけ合い、人と人との絆の力により、詐欺被害の防止に県民あげての取り組みを展開していきます。

何かあったら すぐ相談!!

徳島県消費者情報センター

相談電話 088-623-0110

相談時間
・平日(水曜日休所日)9:00~18:00
・土・日9:00~16:00

注

徳島県では、H25年はオレオレ詐欺に代表される「振り込め詐欺」が、10件、約4,620万円、金融商品の取引の名目で、多額の現金をだまし取るなどの「振り込め類似詐欺」が、29件、約4億9,380万円。合計39件、約5億4,000万円の被害が発生しています。これは、平成24年の約2.5倍の規模で、過去最高の被害額であります。

県政報告【過去2年間(ハガキ)】

未来へのかけ橋

発行 2012年1月23日

岡田りえの 県政報告 (新春号)

岡田 理絵

〒772-0032
鳴門市大津町吉永226-2
TEL 088-685-3537
FAX 088-683-0395
<http://www.okadanie.com/>

2012年もよろしくお願いいたします。

昨年9月議会において以下のことについて一般質問をいたしました。

- ①手入れ砂の確保 ②ドクターヘリの運航 ③外国人誘客
- ④徳島の優れたITC環境を活かした公衆LANの拡大の取り組み
- ⑤男女共同参画社会 ⑥児童虐待防止 ⑦レンコンの振興対策
- ⑧教員への防災教育 ⑨中国チャーター便の活用 ⑩食育



また、文教厚生委員会で健保鳴門病院の存続に向けた今後の見通しについて質問し、11月議会において県が購入することが決まりました。詳細は、24年度に鳴門市はじめ関係者間で協議していきます。

今年は、特に、子ども・若者ビジョンを着実に推進していきます。未来をになう子ども・若者が、健やかに成長し円滑な社会生活ができるよう、環境の整備をし、支援を行ってまいります。

今後ともご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

徳島県議会議員 岡田理絵



未来へのかけ橋

発行 2012年10月20日

岡田りえの 県政報告



皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

また、日ごろは温かいご支援を賜り誠にありがとうございます。

今年度は、初めて議会運営委員会副会長、議会改革会議の副座長に選任され、開かれた徳島県議会をめざし議会改革をおこなっています。

常任委員会では文教厚生委員会、特別委員会では過疎人権対策特別委員会において、教育・保険福祉・人権問題について全力で取り組んでいます。

今後とも変わらぬご指導・ご支援の程よろしくお願いいたします。

徳島県議会議員 岡田理絵



東京都墨田区にて、スカイツリー完成後のまちづくりの取り組みについて調査。(7月)



秋田県にて子育て支援と学力向上の取り組みについて調査。「児童会館みらいあ」にて。(8月)



徳島県立中央病院視察。ドクターヘリコプターに搭乗するERのドクターと。(9月)

会派視察報告 H25年度

岩手県釜石市視察

H25年9月の
釜石市の様子



釜石市役所

釜石市役所入り口(左写真の青の印)
まで瓦礫で埋まった



釜石市内の道路
(津波が通ったまま)



釜石市役所にて釜石市の津波防災教育「児童・生徒に自分の命は自分で守るチカラをつける」取り組みについて調査。



避難場所から市内を望む



三木亨参議院議員東京事務所にて



H28年より導入される社会保障・税番号制度について参議院会館にて会派勉強会



ビジット・ジャパン・キャンペーンの2020年に訪日外国人旅行者を2000万人にする取り組みについて調査

防災教育の取り組み調査



防災教育の大木聖子先生と
(慶應義塾大学にて)

編集後記

3月1日「春の渦開き」が開催され、観光の季節が到来しました。平成24年11月定例会代表質問で「鳴門の渦潮の世界遺産登録について」質問いたしました。徳島県が誇る貴重ですばらしい地域資源を、皆さまとともに地元から盛り上げて、世界遺産登録をめざしてまいります。

これからも、皆さまからいろいろなご意見をいただき、徳島県政に反映し、誰もが輝いて幸せに暮らせる「元気な未来」を築けるよう、精一杯力を尽くしてまいります。結びになりましたが、皆さまのご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。

様々な情報発信を
してまいります。
よろしく
お願いします。

ブログも
更新しています。
よろしく
お願いします。



<http://www.okadarie.com>